

第 13 回都市水害に関するシンポジウム  
講演論文集

Proceedings of the 13<sup>th</sup> Symposium on  
Urban Flood Disasters  
(Nov. 1, 2014)

平成 26 年 11 月 1 日  
九州大学医学部百年講堂

主催 (社) 土木学会西部支部

地域防災研究会

後援 博多あん・あんリーダー一会

## 緒 言

近年の豪雨災害を考えると、もはや異常気象という言葉が当てはまらなくなってきました。異常が常態化している現状からすると、地球温暖化と相まって日本が亜熱帯化してきていると見る方が妥当なように思われます。日本全国いたる所で毎年のように短時間降水量の極値が更新され、急激な洪水流出と河川水位上昇をもたらし、大きな水害の発生に繋がっています。

1999年・2003年福岡水害、2004年新潟・福島・福井豪雨災害、2005年宮崎水害、2006年鹿児島県北部豪雨災害、2008年神戸市のゲリラ豪雨災害、岡崎市の氾濫災害、2009年中国・九州北部豪雨災害、2011年新潟・福島豪雨災害、紀伊半島の台風12号災害、2012年九州北部豪雨災害など水災害が毎年のように発生しています。本年度においても、8月に広島で多数の死者を出すなど各地で豪雨災害が発生しました。

特に中小都市河川では集中豪雨に対する脆弱性が顕著であり、洪水予測の余裕が無く浸水防御・避難などの準備は洪水が発生してからではとても間に合いません。それらは警戒期に早期に実施する必要がありますが、大雨洪水警報や土砂災害警戒情報などの予測情報で避難行動を起こす住民は極めて少数で、多くの住民は浸水などの異常事態に直面してあわてて避難を開始するのが実態です。

豪雨時の危機対応、特に避難対策について有効な方策を考えるには、工学者、人文社会学者、実務家、技術者が分野横断的・総合的に検討することが必要との認識に立ち、土木学会西部支部では「豪雨時の避難のあり方と地域防災力強化に関する調査研究委員会」（平成23年度～26年度）を設置し、学術的な観点から豪雨時の避難のあり方、それを補うための地域防災力の強化方策について災害事例を通じて調査研究を行っています。

一方、1999年の福岡水害を契機として「都市水害に関するシンポジウム」を毎年開催し、今回13回目を迎えることになりました。この間、主に水災害に対する地域防災をテーマとした「各種調査研究委員会」と連携を図りながら、最新の研究成果を紹介するとともに、その対策について参加者とともに考えてまいりました。

今回のシンポジウムは、上記調査研究委員会を公開する形で実施するもので、橋本先生の委員会報告をはじめ、麦倉先生には「東日本大震災の教訓を踏まえた自主防災計画」、日高先生には「都心部におけるエリア防災の推進」、山下先生には「今夏の広島県の大雨」と題したご講演をいただき、討議することといたします。

本シンポジウムでの意見交換・情報交換が豪雨災害に関する研究・実務レベルの向上に役立ち、豪雨災害の防災・減災に繋がることを期待しています。

平成26年11月1日

大和 則夫

## 第13回都市水害に関するシンポジウム実行委員会

委員長	大和 則夫	(株) 東京建設コンサルタント・支社長
副委員長	中島 隆信	(株) 建設技術研究所 河川部・部長
幹事長	福元秀一郎	(株) 東京建設コンサルタント・総合河川部・部長
	池松 伸也	九州大学大学院工学府・技術専門職員
	菊池 英明	八千代エンジニアリング (株)・河川・水工部・主幹
	小林 博昭	西日本技術開発 (株)・土木管理部・部長
	萩原 崇	日本工営 (株) 技術第一部・課長
	橋本 晴行	九州大学大学院工学研究院・教授
	松田 如水	パシフィックコンサルタンツ (株)・課長

## 目 次

1. 「平成 23～26 年度土木学会西部支部調査研究委員会報告  
：豪雨時の避難のあり方と地域防災力強化に関する調査」  
.....橋本 晴行 1
2. 「岩手県大槌町吉里吉里地区における自主防災計画－東日本大震災の被災実態を  
検証し防災文化を継承する取り組み」  
..... 麦倉 哲 7
3. 「地方都市都心部におけるエリア防災の推進について」  
..... 日高 圭一郎 15
4. 「2014 年 8 月 20 日の広島県の大雨」  
..... 山下 寛 25